

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2年後期	2	2	必修（教職必修）
担当教員			
脇坂 圭一			
添付ファイル			
講義概要			
建築計画は建築設計に先立つプレ・デザインとして位置づけられる。様々な建築用途のプログラムについて、機能、空間構成、構法といったハード面、使われ方、アクティビティ、運営体制といったソフト面を確認しながら、建築空間を理解し、建築計画・設計に反映させる能力を養う。建築計画1と建築計画2は関連した科目であり、建築計画1から建築計画2にかけて、特定少数が使うプライベート性の高いプログラムから、徐々に不当的多数が使うパブリック性の高いプログラムについて学修する。 この科目は、建築設計分野の実務経験のある教員が担当する科目である。			
授業計画	1	単位空間1 集合と座の配置、コレ・ソレ・アレ領域、パーソナルスペース、座席配置と対人距離、人体を規範とした比例理論、使われ方調査：場面の採集、単位空間の寸法、規模算定、面積原単位と原単位方式、行為と場面、茶室、仕切りの高さ、机の甲板モジュール、座席レイアウト（AL①） ・AL①は全回、AL④は発表およびレポート提出が対応する旨の説明 ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。	
	2	単位空間2 見やすい展示の範囲、ディスプレイにおける垂直方向の区分、大規模店舗の柱スパン、調理の基本寸法、調理室の排気・換気、調理室面積の算定、衛生機器の取付寸法、衛生器具の所要算定数、浴槽の寸法、洗面の寸法、駐車場、駐輪場、エレベーター、エスカレーター、高層ビルのエレベーター計画、エレベーターの運行方式、出入口の開閉方式（AL①） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。	
	3	集合住宅1 ・集合住宅の変遷、住戸平面の変遷、計画要素、アクセス方式、階数と分類、断面形式、住棟間隔とD/H、ラドバーン方式、コーポラティブ、スケルトン・インフィル（SI）（AL①） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。	
	4	集合住宅2 ・日本の集合住宅事例、諸外国の集合住宅事例（AL①） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。	
	5	集合住宅の計画3 ・事例発表、質疑応答（AL①）（AL④） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。	
	6	図書館の計画1 ・系譜、種類、館数、系譜、サービスと諸室、出納システム、モジュラープランニング、プランタイプ、閲覧机、カウンター、キャレル、書庫形状と収納効率、ブックモビル（BM）（AL①） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。	
	7	図書館の計画2 ・日本の図書館建築事例、諸外国の図書館建築事例（AL①） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。	
	8	図書館の計画3 ・事例発表、質疑応答（AL①）（AL④） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。	
	9	教育施設計画1 ・学校建築の変遷、課題、種類、設置基準、在学者数の推移、配置計画、運営方式、オープンスペース、教室、特別教室（AL①） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。	
	10	教育施設の計画2 ・配置計画、平面計画（ユニットプラン・ブロックプラン）、日本の学校建築（AL①） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。	
	11	教育施設の計画3 ・事例発表、質疑応答（AL①）（AL④） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。	

	12	医療施設の計画1 ・診療所と病院、系譜、医療施設の機能分化、医療体系、医療需要、病院の部門構成、プランタイプ、人・物の動き、規模計画、病棟と看護単位、待合・診療・処置室の関係、ナースステーション（NS）の配置、病室計画（AL①） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。
	13	医療施設の計画2 ・事例発表、質疑応答（AL①）（AL④） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。
	14	独立住宅の計画1 ・住宅の型、着工戸数の推移、住宅ストック数、現代住宅の課題、生活行為・生活空間、床面積と天井高、調理の寸法、洗面の寸法、玄関屋根材料と勾配伝統的住宅・農家、町屋、都心住宅、構成形式と表現、構造・構法（AL①） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。
	15	独立住宅の計画2 ・事例発表、質疑応答（AL①）（AL④） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。
	16	定期試験
授業形態	各回の講義を主としながら、グループ毎に事例発表を行う。加えて、レポート課す。 アクティブラーニング：①：15回、②：0回、③：0回、④：4回（レポート・発表）、⑤：0回、⑥：0回	
達成目標	(1) 建築計画・設計の前提となる単位空間や法規等の基本事項について理解する。 (2) 建築計画・設計の前提となる様々なビルディングタイプ（用途／建築プログラム）（具体的には、独立住宅、集合住宅、学校建築、医療施設、図書館）の機能、空間構成、構法といったハードの側面について理解する。 (3) 建築計画・設計の前提となる様々なビルディングタイプ（具体的には、独立住宅、集合住宅、学校建築、医療施設、図書館）の使われ方、アクティビティ、運営体制といったソフトの側面について理解する。 (4) 様々なビルディングタイプ（具体的には、独立住宅、集合住宅、学校建築、医療施設、図書館）について、ハードの側面およびソフトの側面から、統合的に建築空間を理解する。	
評価方法・フィードバック	試験（80％）、レポート・発表（15％）、講義中の応答および出席（5％）を総合評価する。原則として、レポート等のフィードバックは次回以降の授業内で実施する。	
評価基準	総合点が100点満点で60点以上の者に単位を与える。 秀（1～4）：100～90点、優（1～3）：89～80点、良（1～3）：79～70点、可（1、2または3）：69～60点、不可：59点以下	
教科書・参考書	教科書：小野田泰明『ブレデザインの思想 建築計画実践の1 1 箇条』TOTO出版、『JIA東海住宅建築賞2024』JIA日本建築家協会東海支部 参考書：日本建築学会編『コンパクト建築設計資料集成』、ウィリアム・ペーニャ、スティーブン・パーシヤル『プロブレム・シーキングー建築課題の発見・実践手法』彰国者、五十嵐太郎、大川信行『ビルディングタイプの解剖学』王国者	
履修条件	1. 「近代建築史」を履修していること。 2. 「建築設計・基礎」「建築設計A1」を履修していること。	
履修上の注意	1. 本講義と建築設計課題は密接に関連するので、プレ・デザインとしての建築計画と実際にカタチに落とし込む建築設計の応答関係を意識して取り組むこと。 2. 日常における建築と社会の関わりを知るために、意識的に新聞や建築雑誌等の情報に触れ、建築計画的な視点から考察すること。	
準備学習と課題の内容	1. 授業計画に記載されている同種の用途について、学内・学外の図書館にて、国内外の雑誌・書籍から、プログラムおよび配置計画・平面計画・断面計画を、図面・写真から調べる（合計3.0h）。 2. 国内はもとより海外も含めた積極的な事例訪問と空間体験を推奨する。	
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	知識・理解:40%, 思考・判断:30%, 関心・意欲:15%, 態度:10%, 技能・表現:5%	
DP1 知識・理解		
DP2 思考判断		
DP3 関心意欲		
DP4 態度		
DP5 技能・表現		